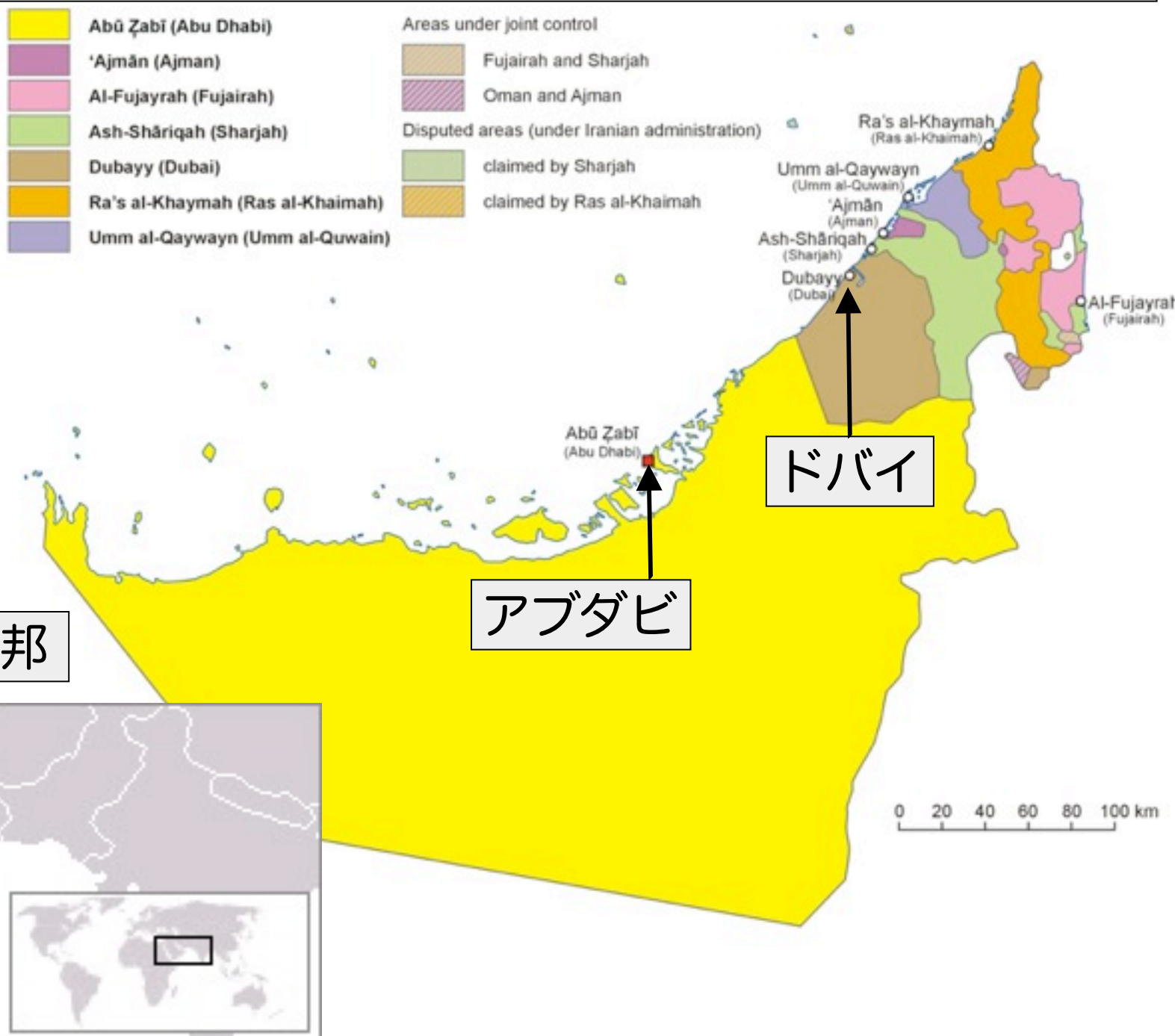


Dubai訪問記

-夢に向けて-

アラブ首長国連邦は、西アジア・中東の国。アラビア半島のペルシア湾に面した地域に位置する7つの首長国からなる連邦国家である。



Dubai



ドバイ：アラブ首長国連邦を構成する都市国家、中東の香港を目指す観光都市にして金融都市、その外観はまさに「近未来都市」
詳細は以下をご覧ください：<http://www.dubai.uae.emb-japan.go.jp/>



ドバイ空港 正面入り口

SF映画に登場する未来
の空港を見るような外観





幹線道路沿いのドバイの街並み



世界一の高層ビル Burj Dubai (828m)



世界一高層で豪華なホテル Burj Al Arab (271m)



世界最大のショッピングセンター The Dubai Mall



旧市街 スパイス・スーク

ありとあらゆる香辛料・
ハーブ・乾物が並び、か
つて東西の中継地であっ
たことが偲ばれます。





旧市街 ゴールド・スーク

金製品を中心とした貴金属
を扱う店が軒を並べる一
画。これも古くからの中継
地の名残か。





現地の方と一緒に
どことなく顔立ちが・・・

今回のドバイ訪問目的

アラブ首長国の医師免許取得

そして、近い将来、
同地で医療活動（手術）を始めたい

ドバイでの医療活動に向けて -1-

石油資源に乏しいドバイは、自国を中東あるいは世界におけるビジネス・金融・観光のハブ、さらには医療サービスのハブにすることに、国の未来を懸けている。特に医療に関しては後述のドバイ・ヘルスケア・シティー(DHC)と呼ぶ特区を設置して、多くの優遇処置を掲げ、海外からの参入を促している。現地人の医師は絶対的に不足しており、現在、同地で診療に当たっているのは大多数が外国人である。高度で良質の医療サービスを提供することで、中東の富裕層をターゲットに活動できると判断した。

そこで、今回、現地コンサルタントを通じてアラブ首長国連邦の厚生省に医師免許の申請を行った。申請書類の準備に多大の労力と時間を要したが、結果的に現地で医師の口頭試問を受けるだけで申請が完了した。ただし、DHCで働くためには、別部門に新たに申請書を提出する必要がある。なお、現在、同地の医師免許を持った日本人はいないとのことである（ただし、歯科医師は活動中）。



今回、面接を担当したDr Ashraf Elorabyとともに

ドバイ・ヘルスケア・シティー（以下DHC）の視察

DHCは、ドバイ政府が経営する投資企業の1つであるドバイ・ホールディングの指揮下で開発され、医療サービスと関連分野の各種研究・開発を行い、中東での医療先進地区とする構想である。

DHC内は、a.100%外国資本可、b.法・個人税の50年間の免除、c.利益・配当送金の自由、d.外国人雇用規制なしなどの特典がある。そのため、多数の欧米医療機関・企業が進出を決めており、ハーバードメディカルスクール（米）、メイヨークリニック（米）など158の病院が進出を表明している。



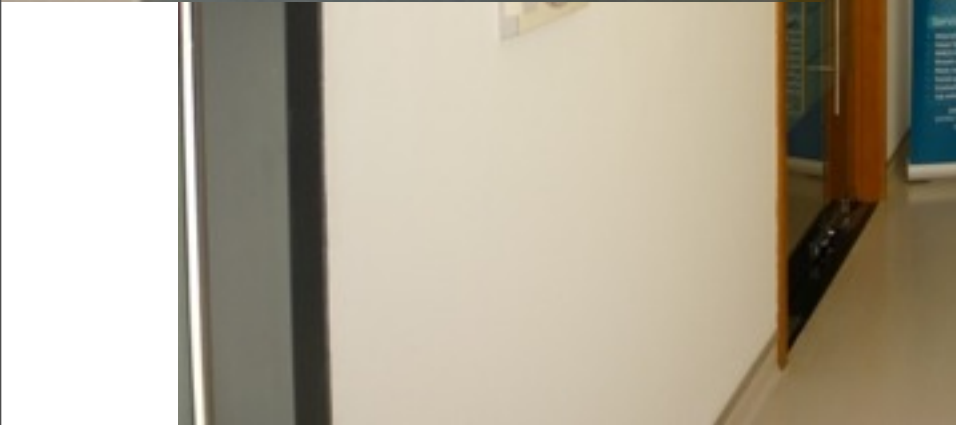
DHC事務局入り口



DHCの完成模型



DHC内の種々の医療関係施設



DHC内のA美容外科クリニック
ビルの一部を購入し改装

院長は英国出身、1年前に英国を出て開業、メリットは何より免税であることと話していた。



手術室



診察室

DHC内のA美容外科クリニック

日帰り手術のみのシンプルな施設



ビル外観



受付前ロビー

12名の医師を抱える大手のクリニック、殆どが米国からの非常勤医



1階廊下



B美容外科クリニック

手術室入り口



VIP病室内待合



VIP病室

B美容外科クリニック

中東の王族・富裕層をターゲットにした内装・設備である。

ドバイでの医療活動に向けて -2-

首尾良く医師免許が得られても、夢の実現には多くのハードルがある。今回、現地を訪ねて同地での医療活動を現実のものとするために必要と感じたことを以下に列記する。

- ◆共感できる医療サービスを提供している病院・クリニックと提携する（自前のクリニックを持つことは現実的でない）。
- ◆現地に精通し、現地人（役人）との太いパイプを持ったコンサルタントの後ろ盾を持つ。
- ◆現地の文化・習慣・宗教上の問題を理解する。
- ◆美容外科技術の向上と国際的な活動（学会・誌上発表）でreputationを築くことは言うまでもない。
- ◆何より自分をアピールする場を世界に向けることに、価値と喜びを持つ。